

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成26年5月15日
【四半期会計期間】	第35期第2四半期（自平成26年1月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社 梅の花
【英訳名】	UMENOHANA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梅野 重俊
【本店の所在の場所】	福岡県久留米市天神町146番地
【電話番号】	0942(38)3440(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理部長 上村 正幸
【最寄りの連絡場所】	福岡県久留米市天神町146番地
【電話番号】	0942(38)3440(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理部長 上村 正幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期連結 累計期間	第35期 第2四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自平成24年 10月1日 至平成25年 3月31日	自平成25年 10月1日 至平成26年 3月31日	自平成24年 10月1日 至平成25年 9月30日
売上高(千円)	15,540,775	15,568,877	29,780,716
経常利益(千円)	348,319	494,424	207,244
四半期(当期)純利益(千円)	162,885	296,466	41,608
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	182,353	293,368	57,518
純資産額(千円)	6,773,114	6,904,672	6,648,143
総資産額(千円)	19,846,518	20,372,946	19,002,880
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	22.55	40.32	5.71
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	20.06	33.99	4.94
自己資本比率(%)	34.1	33.9	35.0
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	611,368	938,705	953,341
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	908,601	1,447,290	1,781,661
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,277,308	707,724	1,128,901
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	2,336,383	1,856,027	1,656,888

回次	第34期 第2四半期連結 会計期間	第35期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 1月1日 至平成25年 3月31日	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	17.54	21.34

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 平成24年11月14日開催の当社取締役会の決議により、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、海外景気の下振れリスクがあるものの、個人消費の増加や設備投資の持ち直し等により景気は緩やかに回復しており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要も強まっていると言われる中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「すばらしいおもてなしをする為に たくさんのお客様と会話をしコミュニケーションを図ります お客様の顔と名前を覚えます」を経営方針として、お客様に感極まるサービスを提供できるように取り組んでまいりました。

利益率向上策といたしまして、物流の見直しによるコスト削減及び販売促進費の抑制、ロコミによる営業及び外回り営業の強化による売上拡大、さらに店内営業の強化としてお客様とコミュニケーションを図ることによりご来店頻度を高めることができるよう取り組んでおります。

出店につきましては、従来のスクラップアンドビルドに加え未出店エリアへの展開を視野に入れて情報収集を行い、今後の積極的な出店に繋げてまいります。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業5店舗出店及び2店舗閉店、テイクアウト事業3店舗出店及び2店舗閉店により、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、263店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高155億68百万円（前年同期比100.2%）、営業利益5億21百万円（前年同期比111.9%）、経常利益4億94百万円（前年同期比141.9%）、四半期純利益2億96百万円

（前

年同期比182.0%）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### （外食事業）

外食事業におきましては、平日専用のメニューを新たに作成するとともに、恵方寿司やちらし寿司等のテイクアウト商品にも力を入れ売上の底上げに注力いたしました。また、ご来店されたお客様への挨拶を徹底しお客様の顔と名前を覚えコミュニケーションを図ることにより、お1人お1人に応じたきめ細かいサービスを提供することでご来店頻度の向上に努めました。

経費の削減につきましては、人時生産性や接客指数等のコントロール、店内営業活動を強化することによって販売促進費を抑制しております。

出店及び閉店につきましては、梅の花は3店舗出店及び1店舗閉店し70店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は2店舗出店及び1店舗閉店し6店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は82店舗、売上高は96億9百万円（前年同期比97.3%）、セグメント利益6億15百万円（前年同期比91.2%）となりました。

#### （テイクアウト事業）

古市庵テイクアウト店におきましては、教育担当者の訪店による接客指導や外部モニタリング調査結果の店舗へのフィードバック等、顧客満足度の向上に努めております。また、バレンタインデー寿司等、既存の考えに捉わ

れ

ない新しい提案や、初午いなり等伝統や風習にちなんだ企画を行うとともに、他業種とのコラボ商品を開発する等購買意欲の向上を図りました。

梅の花テイクアウト店におきましては、添加物を控えるとともに、季節感あふれる商品開発に注力いたしました。また、お買い上げ頻度を向上させるために、弁当類の取扱品目数を増やし、売上拡大を図りました。

経費の削減につきましては、人員配置や勤務シフトを見直すことで、サービス水準を落とすことなく人件費を削減し、利益率の向上に努めております。

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は1店舗出店及び1店舗閉店し133店舗、梅の花テイクアウ

ト店は1店舗出店及び1店舗閉店し38店舗、その他店舗は1店舗出店し、10店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は181店舗、売上高は59億59百万円（前年同期比105.1%）、セグメント利益3億31百万円（前年同期比150.9%）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ13億70百万円増加し、203億72百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1億99百万円増加、季節要因により売掛金が2億15百万円増加、設備投資により有形固定資産合計が8億99百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ11億13百万円増加し、134億68百万円となりました。これは主に、借入金の総額が7億76百万円増加し、買掛金及び未払金が1億70百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ2億56百万円増加し、69億4百万円となりました。これは主に、利益剰余金が2億59百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、1億99百万円増加し、18億56百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は9億38百万円（前年同四半期6億11百万円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益4億44百万円の計上、非資金的費用である減価償却費5億2百万円及びのれん償却額57百万円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は14億47百万円（前年同四半期9億8百万円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出13億48百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は7億7百万円（前年同四半期12億77百万円の収入）となりました。

これは主に、金融機関からの短期借入金の純増額16億円、長期借入金の返済による支出8億23百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設のうち、当第2四半期連結累計期間に完了したものは次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資金額 (千円)	資金調達方法	完了年月
提出会社	神埼ハム工房 (佐賀県神埼市)	外食事業 テイクアウト事業	工場設備	133,596	自己資金及び 借入金	平成26年3月
株式会社 梅の花 Service	梅の花仙台店 (宮城県仙台市太白区)	外食事業	店舗設備	314,204	自己資金及び 借入金	平成25年10月
	花小梅玉川高島屋店 (東京都世田谷区)	外食事業	店舗設備	115,665	自己資金及び 借入金	平成25年12月
	梅の花おおたかの森店 (千葉県流山市)	外食事業	店舗設備	324,889	自己資金及び 借入金	平成26年1月
	梅の花宝塚店(仮称) (兵庫県宝塚市)	外食事業	土地	302,591	自己資金及び 借入金	平成26年1月

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,700,000
計	20,700,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月15日)	上場金融商品取引所名または登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,489,200	7,489,200	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株であります。
計	7,489,200	7,489,200		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成26年1月1日～ 平成26年3月31日		7,489,200		4,123,177		2,000,166

( 6 ) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社梅野企画	福岡県久留米市櫛原町71 - 7	1,202,100	16.05
梅野重俊	福岡県久留米市	599,200	8.00
梅野久美恵	福岡県久留米市	377,600	5.04
エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社	大阪府大阪市北区角田町 8 - 7	374,500	5.00
株式会社トーホーフードサービス	兵庫県神戸市東灘区向洋町西五丁目 9	128,000	1.70
株式会社西日本シティ銀行	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目 1 - 1	96,000	1.28
麒麟麦酒株式会社	東京都中野区中野四丁目10 - 2	80,000	1.06
梅の花社員持株会	福岡県久留米市天神町146番地	71,100	0.94
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目 9 番地	46,800	0.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目 7 - 1	45,600	0.60
計		3,020,900	40.34

(注) 上記のほか、自己株式が135,504株(1.81%)あります。

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 135,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,353,500	73,535	
単元未満株式	200		
発行済株式総数	7,489,200		
総株主の議決権		73,535	

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の株式数には、証券保管振替機構名義の株式が600株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社梅の花	福岡県久留米市天神町146番地	135,500	-	135,500	1.81
計	-	135,500	-	135,500	1.81

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,985,089	2,184,289
売掛金	1,243,290	1,458,315
商品及び製品	78,822	74,206
原材料及び貯蔵品	178,739	196,917
繰延税金資産	220,204	217,393
その他	497,143	511,460
貸倒引当金	1,558	1,458
流動資産合計	4,201,731	4,641,123
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,725,713	7,168,703
機械装置及び運搬具(純額)	204,276	250,454
土地	4,631,718	4,934,310
建設仮勘定	162,070	195,804
その他(純額)	535,314	609,659
有形固定資産合計	12,259,094	13,158,932
無形固定資産		
のれん	462,529	404,757
その他	71,453	66,733
無形固定資産合計	533,983	471,490
投資その他の資産		
投資有価証券	86,796	84,971
長期貸付金	183,681	183,565
前払年金費用	-	10,002
繰延税金資産	25,339	17,232
敷金及び保証金	1,675,940	1,766,613
その他	139,337	141,799
貸倒引当金	103,023	102,782
投資その他の資産合計	2,008,071	2,101,400
固定資産合計	14,801,149	15,731,823
資産合計	19,002,880	20,372,946

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	590,446	675,158
短期借入金	2,400,000	4,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,515,232	1,317,930
未払金	1,157,643	1,243,268
未払法人税等	48,750	136,600
賞与引当金	231,600	275,100
ポイント引当金	166,989	164,868
資産除去債務	-	24,697
その他	527,781	608,990
流動負債合計	6,638,443	8,446,613
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	2,259,675
長期借入金	2,609,732	1,983,968
退職給付引当金	83,200	50,554
資産除去債務	638,193	633,049
その他	125,492	94,413
固定負債合計	5,716,293	5,021,660
負債合計	12,354,736	13,468,274
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,500,166	3,500,166
利益剰余金	742,311	482,614
自己株式	238,147	238,218
株主資本合計	6,642,885	6,902,511
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,984	6,886
為替換算調整勘定	4,725	4,725
その他の包括利益累計額合計	5,258	2,160
純資産合計	6,648,143	6,904,672
負債純資産合計	19,002,880	20,372,946

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	15,540,775	15,568,877
売上原価	4,617,579	4,684,843
売上総利益	10,923,195	10,884,034
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 10,457,282	<sup>1</sup> 10,362,804
営業利益	465,912	521,230
営業外収益		
受取利息	2,245	1,897
受取配当金	907	423
受取手数料	12,068	18,258
雑収入	15,307	16,083
営業外収益合計	30,528	36,663
営業外費用		
支払利息	45,018	32,892
株式交付費	34,651	-
社債発行費	32,111	-
雑損失	36,341	30,576
営業外費用合計	148,122	63,469
経常利益	348,319	494,424
特別損失		
固定資産除売却損	68,749	50,208
減損損失	6,902	-
特別損失合計	75,651	50,208
税金等調整前四半期純利益	272,667	444,216
法人税、住民税及び事業税	38,545	135,798
法人税等調整額	71,236	11,950
法人税等合計	109,782	147,749
少数株主損益調整前四半期純利益	162,885	296,466
四半期純利益	162,885	296,466

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	162,885	296,466
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,468	3,097
その他の包括利益合計	19,468	3,097
四半期包括利益	182,353	293,368
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	182,353	293,368
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	272,667	444,216
減価償却費	472,472	502,268
減損損失	6,902	-
のれん償却額	57,816	57,822
賞与引当金の増減額(は減少)	6,000	43,500
退職給付引当金の増減額(は減少)	51,725	32,646
貸倒引当金の増減額(は減少)	928	340
ポイント引当金の増減額(は減少)	3,218	2,121
受取利息及び受取配当金	3,152	2,321
支払利息	45,018	32,892
固定資産除売却損益(は益)	68,552	50,208
売上債権の増減額(は増加)	161,739	215,024
たな卸資産の増減額(は増加)	26,012	13,561
仕入債務の増減額(は減少)	86,676	84,712
その他	95,059	71,776
小計	682,563	1,021,382
利息及び配当金の受取額	1,375	701
利息の支払額	44,015	33,141
法人税等の支払額	28,554	50,237
営業活動によるキャッシュ・フロー	611,368	938,705
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	72	61
有形固定資産の取得による支出	857,710	1,348,832
有形固定資産の売却による収入	1,271	-
無形固定資産の取得による支出	1,974	1,980
有形固定資産の除却による支出	29,334	1,868
投資有価証券の取得による支出	1,231	1,255
資産除去債務の履行に伴う支出	-	1,769
貸付けによる支出	6,340	-
貸付金の回収による収入	109	112
敷金及び保証金の回収による収入	14,216	27,967
敷金及び保証金の差入による支出	26,169	117,020
その他	1,366	2,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	908,601	1,447,290

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	400,000	1,600,000
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	1,586,785	823,066
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	2,227,563	-
株式の発行による収入	601,998	-
自己株式の取得による支出	-	71
リース債務の返済による支出	29,513	31,391
割賦債務の返済による支出	1,417	1,417
配当金の支払額	34,538	36,328
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,277,308	707,724
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	980,075	199,139
現金及び現金同等物の期首残高	1,356,307	1,656,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 2,336,383	<sup>1</sup> 1,856,027

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な項目と金額は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
給与及び賞与	4,318,399千円	4,222,812千円
賞与引当金繰入額	225,800	257,100
退職給付費用	16,851	9,704
消耗品費	732,171	693,152
賃借料	1,824,355	1,873,182
水道光熱費	404,159	427,529
減価償却費	410,840	438,704

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	2,664,579千円	2,184,289千円
預入期間が3か月を超える定期預金等	328,195	328,261
現金及び現金同等物	2,336,383	1,856,027



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年12月21日 定時株主総会	普通株式	34,896	500	平成24年9月30日	平成24年12月25日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成24年12月3日付で、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が4,123,177千円、資本剰余金が3,500,166千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年12月20日 定時株主総会	普通株式	36,768	5	平成25年9月30日	平成25年12月24日	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。なお、1株当たり配当額については、当該株式分割後の金額を記載しております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年11月5日開催の取締役会において、平成25年12月20日開催の定時株主総会に、資本準備金の額の減少を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

(1) 資本準備金の額の減少の目的

今後の財務戦略上の柔軟性および機動性を確保するため、資本準備金の額を減少いたしました。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,500,166千円のうち1,500,000千円を減少させ、その他資本剰余金に減少額の全額を振り替えました。

減少後の資本準備金の額は、2,000,166千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,873,243	5,667,531	15,540,775		15,540,775
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,278	18,605	23,884	23,884	
計	9,878,522	5,686,136	15,564,659	23,884	15,540,775
セグメント利益	675,159	219,971	895,130	429,217	465,912

(注)1 セグメント利益の調整額 429,217千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,609,540	5,959,336	15,568,877		15,568,877
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,573	20,560	25,134	25,134	
計	9,614,114	5,979,897	15,594,011	25,134	15,568,877
セグメント利益	615,647	331,964	947,611	426,381	521,230

(注)1 セグメント利益の調整額 426,381千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント利益の測定方法の変更)

第1四半期連結累計期間より経営管理手法の変更に伴い、各事業セグメントに対する費用の配賦基準

の見直しを行っております。これは、セグメント別損益の実態をより正確に表示するためであります。

なお、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントは、見直後の配賦基準に基づき作成したものを開

示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	22円55銭	40円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	162,885	296,466
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	162,885	296,466
普通株式の期中平均株式数(株)	7,224,165	7,353,711
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	20円06銭	33円99銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	895,442	1,369,500
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月12日

株式会社梅の花

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 工藤 重之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 甲斐 祐二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社梅の花の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社梅の花及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。